

10月23日（月）

メルボルン市長表敬訪問

大阪・メルボルン姉妹都市提携45周年記念事業としてメルボルン市を訪問した代表団一行は、サリー・キャップ市長を表敬するために市役所を訪問した。冒頭、サリー・キャップ市長からご挨拶をいただき、続いて横山市長、片山議長からそれぞれ挨拶を行った。



メルボルン市庁舎

【サリー・キャップ市長 挨拶要旨】

メルボルン市を訪問していただいて心よりお礼申し上げます。

姉妹都市提携45周年ということで、大阪市はメルボルン市にとって一番歴史の長い姉妹都市であり、特別な関係にある。

この度の訪問では、様々な分野での交流やエネルギー会議（All Energy Australia）での発表などを行うと伺っているが、そのような様々な活動が礎となり、両市の非常に長い関係が成り立っていると考えている。また、今回改めて姉妹ストリート提携に関する協定を締結できることを非常に楽しみにしている。

そして、2025年に開催される大阪・関西万博についても非常に注目をしており、成功に向けてできるだけ支援をさせていただきたいと考えている。

【横山市長 挨拶要旨】

大阪市長に就任した初年度に、大阪市とメルボルン市の姉妹都市45周年を記念してメルボルン市を訪問することができ、大変うれしく、また光栄に思う。

大阪市とメルボルン市は、経済、文化、教育、スポーツなど、幅広い分野で交流を重ねており、今回の訪問が両都市の交流のさらなる発展に繋がることを心から期待している。大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに2025年に開催される。健康を軸に幅広いビジョンを示し、未来社会の実験場として先端技術を広め、人類共通の課題解決の場になればという思いで全力で取り組んでいく。ぜひ市長をはじめ、メルボルン市の皆様に大阪にお越しいただきたいと思う。

【片山議長 挨拶要旨】

サリー・キャップ市長並びにメルボルン市議会議員の皆様方とお会いできることを大変楽しみにしていた。

姉妹都市提携45周年という節目を迎えるにあたり、これまでの交流の成果とその意義を改めて確認するとともに、新たな時代に向けて両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、

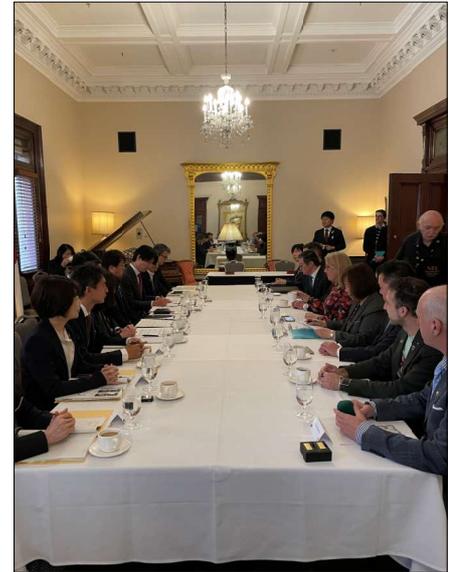
友好関係がより一層発展することを祈念する。

2025年に開催される大阪・関西万博には、ぜひメルボルン市の皆様にも大阪にお越しいただき、活力あふれるその姿と大阪のおもてなしを感じていただきたいと思う。

【意見交換概要】

- ・メルボルン市は、「世界で最も住みやすい都市」において常に上位にランクインされている。豊かなまちをつくるためにどのようなこだわりを持っているのかお聞かせいただきたい。

⇒35年ほど前のメルボルン市は人がどんどん離れていってしまうまちであった。そこで、新しい都市開発の政策を策定し、人中心のまちにすることとした。まず、優先事項として、メルボルン市に住む人を増やすことであった。当時は、メルボルン市内には居住用の建物が非常に少なかったが、現在は居住用と商業用がちょうど同じぐらいのバランスとなり、住む人が増え、経済的にも文化的にも活気が出てきた。また、住民参加型での植樹による緑化、雇用機会の提供も行った。他にも芸術、文化、健康、インフラと挙げればきりが無い。



意見交換の様子

- ・大阪市には御堂筋というメインストリートがあり、現在は車の通行量が多いが、将来的には歩行空間にしたいと考えている。また、大阪駅の駅前に貨物施設の広大な土地があったが公園にする予定である。車両の通行止めを行うことで批判の声もあるが、メルボルン市のように人が暮らしやすいまちをめざしたいと思う。

⇒御堂筋は、スワンストンストリートよりも幅が広く市役所に面した道路であったと記憶している。店舗や事業を営む人に対し、十分な説明をし理解を求めていくことで、長期的に見ればやっていけるのではないかと。

- ・メルボルン市内で、垂直にまっすぐではなく斜めになっているビルを多く見かけた。建物のデザイン性が大変豊かであるが、どのようにしてそのような考えを育てているのか。

⇒デザインエクセレンスというグループがその事業を担っている。例えば、大きなプロジェクトや人の多く集まる建物の場合、専門家や組織する委員会で意見を聴いて、必要に応じてデザインを変更するなど、いろいろな示唆を受けている。

- ・メルボルン市の公共交通についてであるが、トラム（路面電車）を中心としたのは、どのような考えによるものなのか。

⇒公共交通というのは生活の利便性だけではなく、まちをコンパクトにすることも重要であると考えている。ビクトリア州政府がさらに新しくメトロトンネル事業を行っており、5つの地下鉄の駅が追加されることになっている。日本の鉄道システムは世界で最も素晴らしいと考えており、ぜひ我々も学ばせていただきたいと思う。

- ・メルボルン市の人口は今後もどんどん増加していくとのことであり、今後、雇用機会を増やしていくことも必要になると思うが、どのような産業で雇用を創出していこうと考えているのか。どのように投資をしてもらいたいのか。また、そのためにどのような取り組みを行っているのか。

⇒2つのポイントに注力している。1つはすでにメルボルン市で発展している財政、教育、バイオテックなどの分野をさらに強化していく。もう1つは、メディテック、スポーツテック、再エネ関連のグリーンテックなどの新しい分野を開拓していく。メルボルン市として、企業がそのような活動を行いやすい環境を整備していく。また、ビジネスコンシェルジュというサービスがあり、新しくメルボルン市内に事業を展開する方にノウハウを提供し、事業を円滑に行えるように支援している。

また、芸術、文化やスポーツの分野も非常に重要であると考えている。

意見交換の後、大阪市の御堂筋とメルボルン市のスワンストンストリートにおける姉妹ストリート協定の調印式を行った。姉妹ストリート協定は、2018年に姉妹都市提携40周年を記念して締結し、5年間にわたって両市のメインストリートの積極的な連携・交流を行いながら関係を強めてきたものである。今回、姉妹都市提携45周年を記念し、改めて2028年までの5年間の姉妹ストリート協定を締結した。

締結した協定の主な内容は、以下の分野において友好的に双方の協力を促進することである。

- ・人中心の道づくりに向けた道路空間再編の分野における技術交流、情報交換、情報発信
- ・官民連携・パブリックスペースを活用した賑わい創出・観光などの分野における技術交流、情報交換、情報発信
- ・新技術の活用や都市環境改善（気候変動やゼロネット・エミッションなど）の分野における道路に関連させた施策連携



姉妹ストリート協定調印式

表敬訪問終了後、大阪市との姉妹都市に関する所蔵品の展示室の視察を行った。



展示室視察の様子

大阪写真展視察

次に、大阪市に所在する上田安子服飾専門学校の海外提携校であるフォトグラフィー・スタディーズ・カレッジの活動を視察した。同カレッジはメルボルンの芸術指定地区に位置し、写真に特化した専門学校であり、50年にわたり写真教育において卓越した実績を築いている。本年4月に来阪した同カレッジの学生が、上田安子服飾専門学校の生徒とともに大阪のまちを見学しながら撮影した写真の展覧会が開催されており、その写真展を視察するとともに、学校関係者や現地学生との交流を行った。



写真展視察の様子

ビクトリア日豪ビジネス協会との経済交流

次に、大阪市とメルボルン市の姉妹都市提携45周年を記念してビクトリア日豪ビジネス協会が主催するイベントに参加し、日本との経済活動を推進するオーストラリアの企業及び団体との意見交換を通じて、交流の促進を図った。ビクトリア日豪ビジネス協会は、ビクトリア州と日本のビジネス、政治、教育、文化のつながりを強化することを目的とする独立した非営利団体である。冒頭、大阪・関西万博のオーストラリア館設計のリードデザイナーに選出されたバカン社のスティーブン・オールドCEO、ニコラス・リースメルボルン市副市長から挨拶をいただき、続いて、横山市長、片山議長から挨拶を行った。

【スティーブン・オールドCEO 挨拶要旨】

本日は、大阪市とメルボルン市の姉妹都市提携45周年という節目に、このように集うことができたことを大変うれしく思う。

バカン社は、メルボルンで建築・デザインの分野での活動を行っており、130年以上の歴史を持っている。2025年には、新たに大阪・関西万博のオーストラリア館というすばらしい業績を加えることができることとなり、非常にうれしく思う。これは日本とオーストラリア、そして大阪とメルボルンの深いきずなの証となる業績である。

【ニコラス・リース副市長 挨拶要旨】

メルボルン市で最も長い姉妹都市関係にある大阪市との姉妹都市提携45周年のお祝いの場に皆様をお迎えできることを大変うれしく思う。

メルボルン市と大阪市は、文化面、経済面、その他いろいろな交流を行っており、非常に親密な関係にある。今後も末永くこの関係が続くように願う。

また、オーストラリア、そしてメルボルンが2025年に開催される大阪・関西万博に参加できることをうれしく思う。

【横山市長 挨拶要旨】

本日は、ビクトリア日豪ビジネス協会主催のカクテルイベントにご招待いただき、心よりお礼申し上げます。大阪市とメルボルン市の姉妹都市提携45周年を大勢の皆様と一緒にお祝いできることを心よりうれしく思う。

大阪市とメルボルン市とは、1974年の姉妹港提携、1978年の姉妹都市提携に加え、1999年にはビジネスパートナー都市提携を締結し、経済・文化・教育・スポーツなど幅広い分野で交流を重ねてきた。今回の訪問が、両都市の交流のさらなる発展へつながるきっかけとなることを期待している。

2025年には本市において「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博が開催される。いのち、健康を軸に幅広いビジョンを示し、また、「未来社会の実験場」とし

て先端技術の英知を集め、人類共通の課題解決につながる場となればと考えており、本日お越しの皆様にも是非ご来阪いただければと思う。

【片山議長 挨拶要旨】

本日は、ビクトリア日豪ビジネス協会主催のカクテルイベントにご招待いただきお礼申し上げます。

姉妹都市提携から45年間、メルボルン市と大阪市との間においては、様々な分野で交流を深め、切磋琢磨してきた。この度の訪問でも、大阪市にはないメルボルン市のすばらしいところを持ち帰り、大阪市でも生かしていきたいと思う。

2025年には大阪・関西万博が開催される。バカン社がオーストラリア館設計のリードデザイナーに選出されたとのことであり、我々が想像もしないようなものになるのではと期待している。ご臨席の皆様におかれても、2025年大阪・関西万博にお越しいただきたい。

挨拶の後、ビクトリア日豪ビジネス協会会員企業など現地経済界の方々と意見交換を行った。また、大阪・関西万博の公式キャラクターであるミャクミャクによる万博のPR活動も行われた。



意見交換の様子



大阪・関西万博のPR活動